

RSNA2017(第 103 回北米放射線学会)に参加して

溝口圭輔

11月26日～12月1日、米国シカゴにて開催された「RSNA 2017」(第103回北米放射線学会)に行きましたので御報告いたします。

海外旅行の経験はほぼなく、お世話になりっぱなしでした。内田先生、長田先生、角先生、久原先生、学会中大変お世話になりありがとうございました。

小生は2014年4月に入局し、その半年後に佐世保共済病院で1年間、済生会大牟田病院で2年間勤務しました。

特に大牟田での2年間は放射線科医にしてはだいぶんに臨床寄りで、大学に帰ってきてすぐにRSNAに行くことができたのはとてもいい経験でした。

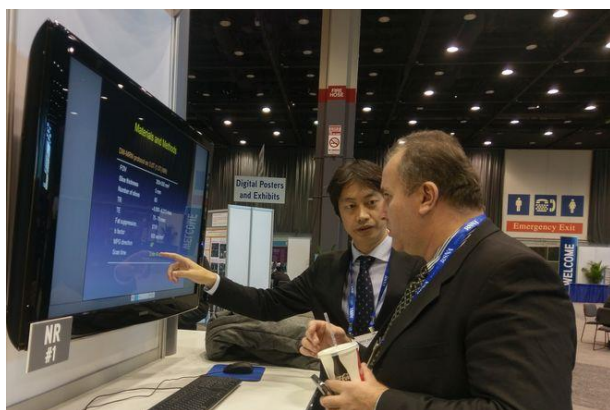
シカゴはアメリカ第3の都市で、観光シーズンは夏のようなようです。夏は過ごしやすく、ミリタリー関係や音楽関連などイベントも多いようです。あえて冬に学会があるのは大人の事情でしょうか。

シカゴの冬はだいぶん寒いとのことでしたが、今年は例年ほどでもなく、小生のいつものスタイル(長袖のシャツにダウンジャケット)で問題ありませんでした。



RSNAの会場はとても広く、しかしその広い会場に多くの人が集まりとても賑やかでした。その雰囲気から自然とモチベーションもあがり、口演を聴きにいたり、英単語を調べながらポスターをみたりと充実した時間を過ごしました。

そんな中でよく目について気になったのがいわゆる「AI」でした。今回のRSNAでは、雑誌の情報ですがAI関連の演題は前年の3倍近い数が採択されたとのことでした。実際、会場ではAI関連の発表は立ち見や部屋移動の対応（別の部屋で画像と音声のみでの対応）になることが時々あり、注目度の高さを感じました。内容は簡単に言うとAIの診断能力がベテランの診断医に劣らないなどといったものや、またAIを支える技術であるdeep learningに関するものでした。

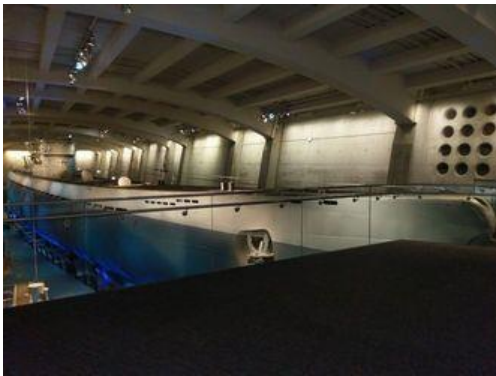


長田先生、かっこいいです！

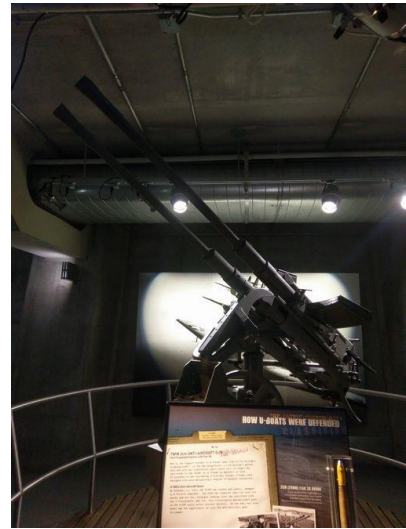
AI（人工知能）やDeep Learning（深層学習）など、皆さんは正確な意味をご存知ですか。簡単にいうと、機械で人間の脳のように機能させる方法をDeep learningと呼び、これにより特別な指示を出さずとも自動で学習していくものをAIと呼ぶようです。ちなみに、人が着目すべき特徴を指示して大量のデータから規則性や関連性を見つけて判断や予測を行わせるものをMachine learning（機械学習）といいます。今の時点ではよりよいdeep learningを開発することに有名、無名の会社が頑張っているといった感じでしょうか。分かりやすい例では、最近のテレビのニュースで囲碁AIがプロ棋士に勝ったというのがありました。いつかくる未来としてあるのかもしれませんが、読影AIを導入したので常勤医はいりません、とか（笑）。

そんなことにはそう簡単にはならないという意見もちらほらあるようですが、例えば2045年問題っていうものがあり、AIの性能が全人類の知性の総和を越えるのが2045年と予想されているようです。

今は車が自動運転され、ケータイ電話が質問に答えてくれるまでになった時代でもあり、この技術の進化を予測できていた人はどれだけいるのでしょうか。人間は10年前と比べてもたいして変わりが無いのに対して科学技術がどんどん進化をしているようです。今後、放射線科の領域でも驚くようなAI関連の技術が出てきてもおかしくないのでは。放射線科医としてもAI関連の話題にしっかり注目し、将来がどういう方向に向かうのかしっかり考えていかなくてはと思いました。



ーシカゴ科学産業博物館ー
アメリカに捕まったUボート



機関砲！イイ！♡

2045年に機械が人を越えるとき、そのときは僕たちの前に現れるのは、友好的な青い猫型ロボットなのか、映画『アイ・ロボット』のあのヤバい奴らなのか……。まあでも27年後ならもうリタイヤしているはずだから仕事を取られる心配は必要ないですかね、心置きなく勉強できそうです（笑）。

最後に、このような貴重な機会をいただき、安陪教授をはじめ医局の先生方、同門の先生方に深く感謝いたします。



シカゴはお肉が美味しかったです。